

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	トレジャーキッズふなど保育園	クラス名（年齢）	ひよこ組（0歳児）
年間テーマ	運動遊び		

### 1. 活動のテーマ

2026.3.23【5回目】

<テーマ>

0歳児の運動（全般）

<テーマの設定理由>

0歳児は、寝返りやずりばい、はいはい、つかまり立ち、歩行など、一人ひとりの発達段階に応じて多様な動きがみられる時期である。一年を通して日々の生活や遊びの中で体を動かす経験を重ね、自分の体の使い方を知り、動く楽しさや意欲を育めるように設定した。

### 2. 活動スケジュール

午後おやつ後の時間に、室内において運動遊びを取り入れた。マットやトンネル、バランス遊具などを用い、こどもが自分の発達段階や興味に応じて体を動かして遊べる環境を設定した。

日々の生活の流れの中で継続的に実施することで、安心して繰り返し取り組めるようにし、体を動かす楽しさや「やってみよう」とする意欲につなげていった。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・丸太型遊具
- ・転倒時の衝撃を和らげるための敷マット
- ・バランスストーン
- ・バランスボード
- ・体操マット

これらの遊具を組み合わせ、こどもが自ら関わりながら体を動かせる環境を構成した。転倒時の安全面に配慮し、敷マットを十分に配慮するとともに、遊具の感覚や高さを調整し、無理なく挑戦できるようにした。

また、こどもの発達や興味に応じて配置を工夫し、はいはいやつかまり立ち、歩行など、それぞれの動きにあった遊びができるよう環境設定を行った。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

午後のおやつ後の時間に、室内にて運動遊びを実施した。丸太型遊具やバランスストーン、バランスボード、体操マットなどを組み合わせて実施した。登る・またぐ・わたる・揺れるといった多様な動きを経験できるようにした。

低月齢のこどもは、マットの上で寝がえりやずりばい、はいはいを楽しみながら、ゆるやかな段差や傾斜に触れる中で体の使い方を知る姿が見られた。

高月齢のこどもは、つかまり立ちや歩行をしながら遊具に挑戦し、丸太型遊具やバランスストーンの上で立つ姿が見られた。さらに保育者に手を持ってもらいながらジャンプしようとするなど、よりダイナミックな動きにも挑戦していた。また、バランスボードの上でも一人で立ち、自ら体をゆらしながらバランスをとる姿が見られた。

保育者は、そばで見守りながら必要に応じて手を添え、安心できる声掛けを行うことで、こどもが自分のペースで「やってみよう」とする気持ちを大切にしながら活動を進めた。

##### <活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

低月齢のこども、マットの上で寝がえりやはいはいをしながら、自分の行きたい方向へ進もうとする姿が見られた。遊具に手を伸ばしたり、触れて確かめたりする中で興味を広げていった。

高月齢のこどもは、丸太型遊具やバランスストーンの上に自ら登って立つことを楽しみ、「もう一回」「できた」といった表情やしぐさを見せながら繰り返し取り組んでいた。保育者に手を支えてもらいながらジャンプしようとする姿や、バランスボードの上で体をゆらしながらバランスをとる姿もみられ、自分の体の動きを確かめながら遊ぶ様子がうかがえた。

こども同士では、近くで遊ぶ友達の様子を見て同じ遊具に挑戦しようとしたり、順番のように繰り返し関わる姿が見られた。保育者は、「できたね」「もう一回やってみる？」などと声をかけながら気持ちに寄り添い、安心して挑戦できるよう関わった。

低月齡



高月齡



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

一年を通して、こども一人ひとりの月齢や発達段階によって、遊び方や体の動かし方が大きく異なることを改めて実感した。そのため、それぞれの発達に応じた環境設定や関りが重要であると感じた。

また、同じ遊びでも繰り返し取り組む中で、最初はできなかった動きが出来るようになるなど、こどもが自ら次の段階へ挑戦しようとする姿見られた。

さらに、安心できる保育者の見守りや

援助があることで、こどもが主体的に体を動かし、「やってみたい」という意欲につながっていることに気づいた。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	トレジャーキッズふなど保育園	クラス名(年齢)	つばめ(1歳児)
年間テーマ	光		

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

様々な遊びを通して、光や色の変化を楽しむ。

<テーマの設定理由>

電車が通る際に窓から差し込む太陽の光の動きに気付いたり、「まぶしい」と手の甲で目を覆うような仕草から光を身近に感じたりしていることが分かったから

### 2. 活動スケジュール

午前中に行う。

- ・ペットボトルの色水遊び
- ・カラーセロハンなどで影絵遊び
- ・光テーブルと玩具などを使用して変化を楽しむ。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

#### 【環境】

- ・部屋を暗くする。

#### 【道具】

- ・光テーブル
- ・玩具類(ピタゴラス、ウォーターブロック、昆虫標本、虫めがね、ワクワクミラー、ビッグわくわくミラー、うちゅうじんのたまご)

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

光テーブルの上に玩具類を置き、こどもたちに自由に遊んでもらう。  
鏡を向かい合わせいたり、むしめがねを使用して昆虫の標本の細部を観察する。  
こども達自身でキラキラボトルを制作して置いてみたり、床にピタゴラスを置いて光の変化や色を楽しんでいた。

##### <活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

ウォーターブロックを重ねて色の変化を楽しんだり、昆虫標本をのせるなどしていた。鏡同士を重ねるとのぞき込んだり、「おーい！」と手を振っていた。何重にも映るボールが鏡の裏にあるものだと思い、覗き込む姿も見られた。こども同士で「ちょうちょ、いたねー！」  
「か(ぶと)むし！」と見せ合う姿も見られた。カーテンの隙間から太陽に光が差し、保育者がそこにむしめがねを当て形を変えると、そこを指差しして「あるねー。」と興味津々な様子だった。保育者とこどもが顔を近づけてお互いの顔を見合わせ、笑う姿も見られた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

1年間を通して身近なものではあるが、遊びを足すことで様々なことに発展することが分かった。

明るく点灯する光に対して安心感を感じているが、暗さや点滅には不安を感じているようだった。暗くすることで怖がる様子も見られるが、陽の光が入ることに気づき、暗い場所にあったピタゴラスを並べて比べていた。

玩具（ピタゴラス）は、見立て遊びで使うことが多かったが、光テーブルを使用することで1枚1枚並べたり、重ねて色が変わった様子をじっくりと観察する姿が見られた。玩具だけではなく、それを通して見える光に興味を持ち、壁や天井などにうつるものを指差しをして追いかける様子も見られた。

初めは暗くすることを怖がっていたこどもも、光を通して様々な遊びができることに気づき、玩具や色水、自分で作ったセンサリーボトルを使用して遊ぶことを楽しむようになった。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	トレジャーキッズふなど保育園	クラス名(年齢)	かもめ(2歳児)
年間テーマ	感触あそび		

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

ボディペインティング×3回、泡遊び、片栗粉あそび

<テーマの設定理由>

・子どもたちが家庭ではなかなかできない感触あそびを十分に行う中で気づきや自分なりの楽しさを見出せたらと思いこのテーマを選定した

### 2. 活動スケジュール

9:40 準備  
10:00 活動開始  
10:40 片付け・着替えなど

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

#### \* ボディペインティング

・たらい(2個) ・指絵の具(・赤・黄) ・クラフト紙(枚)・製作用着衣(園の物) ・養生テープ ・製作用雑巾(2枚)

床一面にクラフト紙を敷き詰めて、養生テープで固定する。その上に絵の具の入ったたらいを三個配置する。

#### \* 片栗粉あそび(1回目)

・どろんこプレート ・片栗粉 ・食紅 ・ボール ・バット ・スプーン ・水・書画カメラ・電子黒板

#### \* 片栗粉あそび(二回目)

・どろんこプレート ・片栗粉 ・テーブル ・椅子 ・雑巾 ・ほうき ・ちりとり  
・ほうき(小)×2 ・ちりとり(小)・ブルーシート

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

###### \* ボディーペインティング

絵の具を手や足につけて、腕や紙に色を伸ばしながらボディーペインティングを行った。感触を楽しんだり、友達と見せ合ったりしながら全身で表現する心地よさを楽しんだ。

###### \* 片栗粉あそび

###### 【1回目】

片栗粉を触り感触を楽しんだ後、水や食紅を足していく。感触や色の変化を感じながら目で確認したり感触を味わったりしながら楽しむ。

###### 【2回目】

机上にどろんこプレートを設置しその上に片栗粉を用意し、十分に感触を楽しめるように環境を設定する。

##### <活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

2歳児クラスでは、年間を通して片栗粉遊びやボディーペインティングなどの感触遊びを取り入れてきた。片栗粉遊びでは、初めは恐る恐る指先で触れていたこどもたちも、次第に手のひら全体を使って握ったり、流したりと遊び方が広がっていった。

「かたい」「トロトロ」といった言葉で感じたことを表現する姿も見られ、素材の不思議さを十分に味わっていた。また、友だちと見せ合ったり笑い合ったりする中で、楽しさを共有する様子も育っていった。

ボディーペインティングにおいても、初めは汚れることに戸惑う姿が見られたが、回数を重ねるごとに抵抗感が薄れ、自ら進んで参加するようになった。腕や足、顔など全身を使って表現する姿や、友だちと塗り合う関わりも見られ、活動への意欲や表現の広がりが感じられた。「みて」「きれい」といった言葉からは、満足感や達成感も伝わってきた。

途中から講師の先生に来ていただいたことで、保育者自身の関わり方を見直す大きな機会となった。こどもに教え込むのではなく、こども自身の気づきや主体性を大切にしながら関わることの重要性を改めて実感した。また、特別な遊び方を提示するのではなく、片栗粉や絵の具といった素材そのものに触れ、感じ、試す中で生まれる楽しさや発見にこそ価値があることを学んだ。今後もこども一人ひとりの感じ方や表現を尊重し、素材を通した豊かな体験を大切にしていきたい。